

「ルールからモラル・マナーへ」 ～湯浦中生としてのプライドを高めよう～

年 組 名前

義務教育最後の学校である中学校は、自律から自立への準備のための3年間です。湯浦中を「ルールで縛られるのではなく、モラルの高さや、マナーの良さで自分を律することができる」湯浦中プライドを持った生徒が集まった学校にすることで、自立の条件の一つである自分で正しく判断できる力を育てたいと思っています。

	ルール rule	モラル moral	マナー manner
意味	規 則	道 徳	行儀・作法
対象	<ul style="list-style-type: none"> 日本の法律で例えると、日本に住んでいる、また訪問中の全ての人を対象となる。「私の国では車は右側通行ですから、日本でも右車線を走りました。」は通用しない。 20歳未満の者は飲酒をすると罰せられるなど、年齢によって対象が異なる場合もある。 条件によっては運転時にシートベルトをつけなくともよいなど、合理的な理由がある場合に個人が除外されることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 現実社会に即した個人の自発的な考え。 法的根拠はなく、個人の考え方次第である。人と人との関係の中で、善か悪かを判断をする感性が大切。 例：SNSにアップするためにお店で大量に料理を頼んで、写真撮影の後はほとんど食べずに残した。代金はきちんと支払った。 	<ul style="list-style-type: none"> 人と人との関わりで当然その場面ではそうすべきとされる行儀・作法。 国や地域、人によって基準が異なるため判断しにくい。適用範囲は限定的で、気にしない人もいる。 例：下のどれも、ある国や地域では正しい。 手づかみで食事をする 40%（世界の人口比） 箸で食事をする 30% スプーンやフォークで食事をする 30%
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 誰も見ていない時でも守らないといけない。 罪に応じた罰があらかじめ定められているので、判断基準が明確であり守らせやすい。 時代の変化に合わない場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 罰則はなく、モラルとしては間違っているても、法では罰せられないことがある。 個人の善悪の考え方、道徳心、倫理観が基準となり、判断が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 罰則は無いが、誰も見ている人がいない時でも守ることが望ましい。 同様の意味にエチケットがあり、その人の品格が問われる。公式行事や冠婚葬祭などの特別に改まった場面では服装規定(ドレスコード)や食事作法(テーブルマナー)を厳しく問われることがある。
目的	ルールは何のためにあるのでしょうか。	モラルは何のためにあるのでしょうか。	マナーは何のためにあるのでしょうか。

①社会や他人と自分とのかかわりを踏まえて、表のそれぞれの「目的」の欄に自分の考えを記入しましょう。

②表中のモラルの例「SNSにアップするためにお店で大量に料理を頼んだが、写真撮影後はほとんど食べずに残した。代金はきちんと支払った。」について、ルール・モラル・マナーを意識して、あなたの考えを書きましょう。（この部分はルールでは○だが、この部分はモラルでは×という考えもあると思います。）

③「ルールからモラル・マナーへ」の取組の良さと課題を書きましょう。

【良さ】

【課題】